

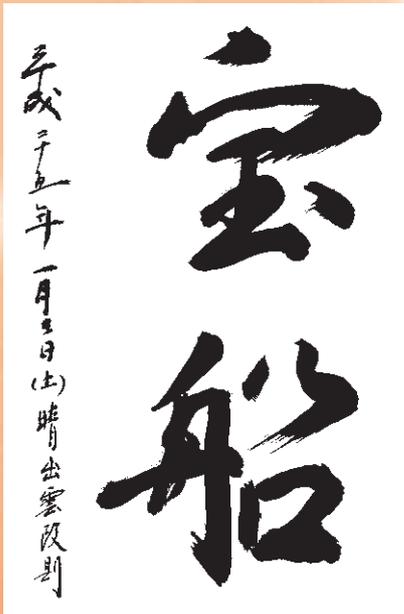
ひろしま県

高次脳機能センターだより

第3号

平成25年6月15日 発行

来院のたびに、掲示板に書を飾ってください。他の利用者さんにとって励みになり、楽しみの一つになつてくれるはずです。



CONTENTS

特集 記憶障害・注意障害	
記憶障害・注意障害とは……………	②
コメディカルスタッフに聞く……………	③
記憶障害・注意障害 Q&A ……………	④
エビデンス	
症例 H.M ……………	④
利用者のページ ……………	⑤
関係機関ニュース ……………	⑥
ご利用案内 ……………	⑧

メッセージ

副高次脳機能センター長 近藤 啓太

高次脳機能センターが広島県で開設し、7年経過し、高次脳機能障害という言葉も、マスコミなどで取り上げられるなど、徐々に一般にも普及しつつあることを感じる今日この頃です。一方で医療従事者内にはその障害のもつ意味、支援の必要性などがまだ十分に浸透していないのではないかと感じ、抜本的な普及啓発と教育の見直しの必要性を個人的には感じております。

全国的には高次脳機能障害支援拠点が各都道府県に設置されたことから、次なる目標としては、各地域の中で、どこに住んでいても均一な支援を受けることができるようになるということが挙げられています。広島県においても、平成24年に新たに呉と広島中央の2医療圏において地域支援拠点病院が指定され、支援の均てん化に向けて一歩ずつ進んでいる状況です。一方、いまだに各地域での福祉の受け皿の整備は遅れている状況です。高次脳機能障害の支援は医療のみならず、福祉のステージの重要性は言っても無いところなのです。この度の機関紙では福祉の受け皿として「サポートネットひろしま」の取り組みを紹介させていただきました。このような素晴らしい取り組みが広島県の各地域に広がっていくように、広島県高次脳機能センターとしても努力していきたいと思っています。

また、今回の特集では脳損傷後に高頻度で出現する高次脳機能障害である「記憶障害」や「注意障害」について当センターでのリハビリ方法や対処法などについて紹介していますので、僅かでも皆さまのお役にたてれば幸いです。

記憶障害・注意障害とは？

高次脳機能障害とは、脳外傷や脳血管障害などによって、脳がダメージを受けることで生じます。高次脳機能障害には、注意障害、記憶障害、遂行機能障害、社会的行動障害などがあります。

今年度の機関紙では、高次脳機能障害の症状の中でも、特に記憶障害と注意障害を取り上げていきたいと思っております。

●記憶障害とは？

私たちが記憶障害と言われ、すぐにイメージするのは「記憶喪失」のように自分がどこの誰なのか思い出せないうようなものかもしれません。しかし、脳にダメージを負った場合、実はこのような「記憶喪失」というのは起りにくいのです。記憶障害というときは、受傷、発症後に、新しいことが覚えられなくなり（覚えにくく）「ここを指します。つまり、昔のことはよく覚えていなければならない、受傷、発症後に新しく覚えなくてはいけないことが覚えにくくなったという人が圧倒的に多いのです。みなさんにとっては、物忘れという言い方の方がなじみがあるかもしれません。

記憶障害と一口で言っても、その重症度は脳の損傷部位や損傷の大きさによって様々です。重度の方であれば、今食べた食事が何か分からなくなったり、

同じことを何度も言ったり、5分前の出来事を全く覚えていなかったりする方もおられます。軽度の方であれば、口頭での約束をやり忘れてしまったり、覚えていないはずの人の名前がなかなか出てこない、○日の□時に△△で待ち合わせといった約束をして、日付も場所も覚えていないが、約束の時刻を忘れるなど、日常生活の細かな部分に障害が表れてきます。このような物忘れは、私達にも経験があることで、見逃されがちかもしれませんが。しかし、頻度が多く、家での生活は何とか送れても、社会生活では非常に困る状況に陥る方が少なくありません。ともすれば、やる気がない」と誤解されることもあります。

このような記憶障害に対するリハビリは、次ページに詳しく載せていますが、最も重要なことはメモをとることです。ただ、メモをとるのは意外と難しく、どこにメモしたか覚えていない、書いたメモが無くなるなんていうことは良くあることです。私達は、メモを書いたことを覚えていたり、どこに書いたかを覚えていたりするので、煩雑なメモであっても何とか社会生活を送ることができています。しかし、記憶障害があると、メモを書いたかどうか、あるいはどこに書いたのかというのを忘れて

しまったため、上手なメモのとり方を反復練習しないと、社会生活で活用することができません。記憶障害のある方に対しては、このような代償手段を獲得、活用していくリハビリが基本となります。

●注意障害とは？

次に注意障害についてご説明します。注意障害と一言で言っても、注意力にはいくつかの種類があります。ここでは3つの種類を紹介します。まず、最もなじみのある「注意力」は、注意散漫とか集中力に欠けているという言葉でよく聞かれます。長時間、注意や集中力を1つのことに向け続ける力のことを、「注意の維持」機能と言います。

また、「注意力」は、探す力、聞き取る力にも関連しています。本屋さんで目的の本を見つけ出す力、デパートでトイレの標識を探し出す力、わざわざした中で相手の話を聞き取る力など、このような探す力、聞き取る力を『選択性注意』と言います。たくさん情報の中から、目的の情報だけを選びとる力です。この選択性注意の機能が障害されると、目的のものをなかなか見つけられなかったり、相手の話を聞き落としたりします。加えて、目的のものを探し出すために、作業の速度が落ちてしまったり状況も起こってきます。私達はこのような速度の低下を取り上げて、『情報処理速度』の低下、『処理速度』の低下とお伝えすることがあります。

3つ目の注意力の種類は、『注意の制

御』という機能です。これが最も高度な注意機能とされています。注意の制御機能とは、例えば、集中して行っている作業から、他のもっと重要なことに注意を切り替えたり、2つ以上のことに同時に注意を払ったりのことです。日常生活では、集中して読書している目の前で、小さい子どもが危ないことをしようとしていたり、そちらに注意を切り替えなければいけません。また、鍋で煮ものを作りながら、次の料理の下ごしらえをする時には、鍋の火加減にも包丁をもってある手元にも同時に注意を払う必要がありますよね。このように、私達は日常生活において、適切に注意を切り替えたり、時には同時に注意を向けたりするなど、注意力をコントロールして生活を送っています。このような『注意の制御』機能が障害されると、例えばテレビを見ている時に話しかけると返事ができなかったり、ムツとして「うるさい」と怒鳴ったりすることがあります。

以上のような3つの注意力は、さまざまな認知機能の基盤ともなっています。例えば、注意力が弱い人は、覚えるべき事柄に注意を向けられないため頭に入らず、結果的に、記憶障害があるように見えることもあります。注意力は一般にリハビリによって一定の効果が期待できるとされています。注意力に対する基本的なリハビリは次ページをご参照ください。

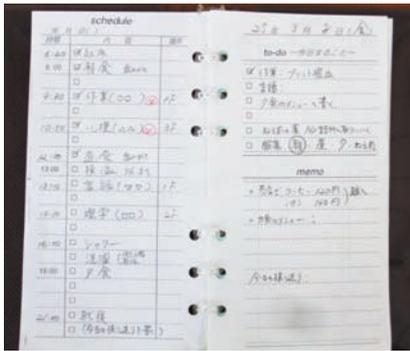


コメディカルスタッフに聞く 記憶障害・注意障害へのセンターでの取り組み

当センターでは、記憶障害・注意障害のある患者様に対して次のような取り組みを行っています。

● 記憶障害に対するリハビリ

記憶障害に対して、当センターの取り組んでいる特色の一つに、『メモリーノート』の導入と活用が挙げられます。メモリーノートの導入と活用には、作業療法、言語療法、心理、看護師などその患者様に関わる全てのコメディカルスタッフで一緒に取り組んでいます。



【メモリーノートの写真】

当センターでリハビリを受けているほぼ全ての患者様がこのようなノートを持ち歩いています。スケジュールを患者様自らが記入し、それを見て行動できるようにサポートを行います。入院患者様には、病棟からリハビリ室まで来る際に、

ナースステーションに寄って、メモリーノートを提示し、看護師にサインをもらう約束があります。サインをもらうことによって、ノートを活用しようとする意識付けにも役立っていますが、何よりも看護師に「いっこらっしやい」「頑張ってきてください」など声をかけられることがノートを使って良かったという思いにつながる一要因になると考えています。



【詰所でサインをもらっている写真】

また、リハビリ中には、必ずノートを見ながら今日の日付や予定を確認したり、昨日の出来事を振り返ったりします。作業、言語、心理のどのリハビリにおいても、このような取り組みを実施しています。ノートがないとリハビリが進まないという仕組みです。

その他、記憶障害に対する取り組みとしては、メモをとる練習（メモをとらざるを得ないような状況の設定）、患者様が覚えやすい工夫をする練習（物語にして覚えたり、カテゴリー別に分けて覚えたり、関連付けて覚えたり…など一般的な記憶術と言われるような工夫の仕方の練習）などを行います。

写真は、作業療法での記憶障害に対するリハビリの例です。行っている作業中の箱を棚に戻し、次回のリハビリの時に自分で箱を見つけて準備を行うという設定になっています。どこに片づけたのか覚えておくために、どのような工夫が必要かということを話し合います。



【作業療法の棚にファイルをとりこっている写真】

次の写真は、言語療法や心理で良く実施する記憶の訓練です。ここでは、覚えることで記憶力を良くするというよりは、覚えやすい工夫の仕方を身につけるということが目的となっています。

このように、リハビリの様々な場面を利用して、記憶を補うすべを身につけていくことが、基本的なリハビリとなっています。

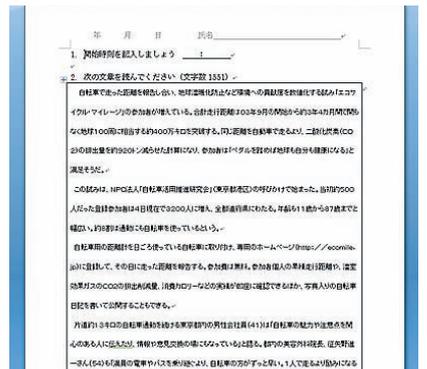
● 注意障害に対するリハビリ

注意力は、繰り返しリハビリを行うことで、改善が期待できるとされています。ですから、注意障害がある患者様に対しては、作業療法、言語療法、心理のいずれでも、積極的に注意力のリハビリを実施しています。基礎的なプリント課題が主になりますが、写真のように体を動かして実施することもあります。



【ボードトレーナーの写真】

注意力のリハビリは、正確さの向上やスピードアップが目標となります。同時に、作業が終わったら必ず見直すという



【プリント課題の写真】

習慣をつけていったり、1つずつ確実に作業が行えるようチェックリストなどを活用したりすることを支援しています。

<p>作業申込 9:30~10:10</p> <p>年 月 日 () () ()</p> <p>氏名(姓) 名 姓</p> <p>性別 年齢</p> <p>住所(〒) 市 区 町 丁目 番 号</p> <p>電話番号</p> <p>担当 理学療法士 作業療法士</p> <p>※1日作業申込は1回まで、お断りいたします。</p>	<p>●ご利用 作業療法士プログラム</p> <p>①家族が障害のある方を介護する際の負担を軽減していただくために ②お母さんの友人をしましょう。今日の目付は？ ()年()月()日()曜日 お母さんの夕食を書いてください () お母さんのメニューを書いてください () 病院の名前は？ () 担当スタッフの名前は？ ○主治医() ○看護師長() ○作業療法士() ○理学療法士() ③実際に書いたお母さんの名前は何でしたか？ ()</p> <p>④ボードリーダーの名前は？ ⑤お母さんの名前と答えを書いてください 問題： 答え：</p>
---	--

【チェックリストの写真】

このようになりハビリティを行うことにより、注意力の改善が期待できますが、課題が難しくなると、効果が出にくい。そのため、その方の障害の重症度により、課題の難易度を設定します。ご家庭で同じようになりハビリティをされた際には、是非専門スタッフに相談していただければと思います。

センターに通院しておられる方にお願いで作っていただいた看板です。とても重宝しています。注文があれば小物を作ってくださいね。



特集 3

記憶障害・注意障害 Q&A

【記憶障害編】

Q. 一度気に入った冗談や印象に残った話があると、すでに話したことを忘れて何度も繰り返します。聞いているほうは何十回も聞かされるとうんざりしてしまいます。

A. 冗談や会話は、相手の反応を期待しているものです。反響があると嬉しくなり、また話したくなります。しつこい場合は、できるだけ取り合わず、受け流すようにしてみてください。相手に反応がないと面白くないので、次第にその冗談や話題は終息していきます。さらっとスルーすることがポイントです。

Q. 1日に何度も同じ質問を繰り返し、直前に質問してきたことも覚えていません。記憶障害があることを理解している家族でも、毎度の質問攻撃には少しうんざりです。

A. 確認アイテムを用意し、「見る(参照する)こと」を促しましょう。予定の確認であれば、まず、カレンダーや張り紙に用件を記入し、一緒に確認します。次に、「確認アイテムを意識できるようになったら、「何を見たら分かるんだっけ?」と自分で参照する行動ができるように段階的に誘導していくと、スケジュール管理を自分で行う第一歩になります。

【注意障害編】

Q. 話を聞いていても、無反応であることが多く、聞かされてはいるのかいないのかわかりません。

A. 注意力がないと、きちんと人の話を聞くことができません。そのため、聞いてもらうための工夫が必要になります。たとえば、視線を相手に向け、つなついたり、首を振ったりと、言葉だけでなくジェスチャーで注意を引いてあげてください。

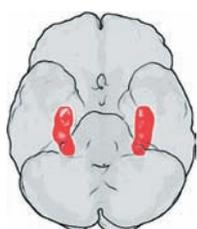
Q. ある日帰宅すると、台所からコゲ臭い匂いが……。どうやら鍋に火をかけている事を忘れ、テレビに夢中になってしまっていたようです。

A. 複数のことを同時に行うとき、どちらか一方が抜けやすくなる場合があります。抜けを防ぐため、覚えておきたいことへの気付きを促すアイテムを用いることが有効かもしれません。例えば、テレビの前など、目に入りやすいところに、メモを張ったり、キッチンタイマーをセットしておく、などが考えられます。

エビデンス

症例H・M

皆さんは症例H・Mをご存じだろうか。H・Mは現在の認知神経心理学の記憶機能の研究領域に様々な知見を与えてくれた患者さんである。H・Mは難治性てんかんの治療のために、てんかんの原因となっていた脳の一部の切除術を受けた。その後から、重度の記憶障害を呈したことから、切除された脳の部分が記憶にとつて非常に重要な部位であることが分かった。その切除された場所は「海馬」と呼ばれる場所で、側頭葉の内側に位置する脳の一部である(イラスト赤の部分)。



も、記憶には様々な種類があるといつことを教えてくれた。症例H・Mは、短期記憶は保たれていたが、長期記憶の障害は著しかったことから、長期記憶形成には短期記憶とは別のシステムが必要であることが示された。また、症例H・Mは手続き記憶も保たれているという特徴がみられた。手続き記憶とは運動技能が熟練していくために必要な運動の記憶のことである(一般的には「体が覚える」とも呼ばれる)。現在リハビリ領域では、記憶障害のある患者さんに望ましい行動を定着させるために、この手続き記憶を利用した訓練(繰り返し体に覚えこませる)を行っている。

利用者のページ

「私の6年間の経験」

高橋 里佳

私は、16歳の時、交通事故に遭いました。入院中、何ヶ月の間、お母さんが昼も夜もずっとそばについてくれました。狭いベッドで寝泊まりして、本当に大変だったと思います。退院したあとは、県リハで通院リハビリを受けながら、障害者支援施設「あけぼの」に通いました。そして、通信制の高校の勉強も始め、2年後、無事卒業しました。

この「あけぼの」での出来事を振り返ってみることにします。

このころは、ちょっとした音や動きに異常にびっくりしていました。火災訓練の非常ベルの音でパニックになったこともあります。後ろから不意に人が出てきそうだと怖くて、人込みで目が回ったり、話し声が耳触りで、すぐ気分が悪

くなつて座り込んだりしていました。こんな調子なので、食堂にはなかなか入れませんでした。しかし、私と同じくらいの年の女の子が「パラパラを踊ろう」とグループ訓練に誘ってくれて、それまでは入れなかったグループの訓練に入れるようになり、だんだんと人



に慣れて行けるようになりました。

また、私はちょっとしたことでも（私にとってはちょっとしたことではありませんが）、すぐ嫌な人ができてしまいます。みなで料理をする計画を立てたときのことです。メンバーのなかに「それはいや」「こ

れはいや」という人がいました。みんなで一生涯懸命考えているのに・・・と感情的になつてぶつかり、結局その時、料理をしませんでした。それからが大変です。その人と同じ部屋にいることも嫌で、視界に入るのもダメでした。そのため、目に入らない位置に席替えをしてもらったり、部屋を分けてもらったり、職員さんにその人への不満を長々と聞いてもらいました。そうこうしているうちに、嫌いな人が少しずつ変わっていき、少しずつさらっと流せるようになっていきました。

集中心についても、初めは10分と続かなかつたのに、生活訓練プログラムをするうちに、だんだんと時間一杯できるようになっていきました。

今、私は働いています。建築現場に必要な機材を貸し出す会社です。工事現場で大きな音に囲まれて、9時から3時まで仕事をしているのですから不思議なものです。

感情面のコントロールはまだ難しいので、平日に休みがとれる職場を選び、県リハや支援センターの人とも定期的に会えるようにし

て支えてもらっています。

私は、忘れやすいために「また?」「さっきも言ったよ」と言われることがあります。その時は「これが障害なんよ」と笑っていますが、この何気ない言葉がぐさりと胸に突き刺さり「やはりわかかってもらえない」と心で泣いています。

また、嫌な人のことを「無視すればいいじゃない」というアドバイスにも腹が立ちます。無視できるなら苦労しないのです。どうか知ってください。皆さんが何気なくできるちょっとしたことに大変な努力がいる私たちがいることを……。



スタッフより

高校生の少女から、美しい女性になっていくのがまぶしい感じですよ。悩み、苦しみなから努力を続け、感謝する気持ちと明るさ、前向きな生き方が強みだと私たちスタッフは思っています。彼女は今も歩み続けています。

関係機関ニュース

講演会 報告

『高次脳機能障害が
よくなるとういこと』

日時：平成25年2月24日(日)

午後1時～4時

場所：ひろしまYMCA国際文化ホール

主催：NPO法人高次脳機能障害サポート
ネットひろしま

社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団
小澤富士夫さん、立神粧子さん夫妻の
ニューヨーク大学YUSX通院プログラムの体
験談を聞かせていただきました。

後半のシンポジウムでは「高次脳機能障害
の治療とその意味」と題して、西広島リハビ
リテーション病院岡本隆嗣院長のコーデ
ィネットのもと、県立広島大学の本多留美准教
授を交えて小澤夫妻が受けてこられた治療に
ついてセッションが行われました。

家族会 情報

脳外傷友の会第12回全国
大会は富山県で開催

昨年9月28、29の両日『心か
ら心へ 理解しあえる安心感の
持てる関係』をテーマに富山市
内で盛大に開催されました。
今年度は大分県で開催予定で
す。



お知らせ

おすすめの1冊

「わかりやすい小児の

高次脳機能障害対応マニュアル」

診断と治療社 栗原まな編著

昨年度の研修会でお招きした先生の著書
です。小児の対応について分かりやすく解
説されています。一部抜粋します。

「()でできること」「()できないこと」
「がんばればできる」「みんなはちゃんとで
きるよ」など周囲の配慮を欠いた発言は、
劣等感を抱いたり、自信喪失につながるこ
とがある。
「～しないで」「～してはいけません」など、
命令口調の指示は出さない。
できたこと、よいことはすく褒め、自信
につなげる。

全国情報

高次脳機能障害支援普及
全国連絡協議会にて

厚生労働省の25年度運営方針の中で「高
次脳機能障害支援普及事業」から「高次脳
機能障害及びその関連障害に対する支援普
及事業」へ名称変更されました。失語症な
ども対象にしていることを分かりやすくす
るためです。

勉強会 情報

家族セミナー
のご案内

高次脳機能センターでは、毎月2回、
高次脳機能障害の方やそのご家族、そ
の他関心をお持ちの方を対象に、次の
とおり学習会を開催しています。

場所：広島県立障害者リハビリテー
ションセンター（会場は時々変
わりますので3階受付でご確認
ください）

●脳損傷とその後遺症について

日時：7月5日(金)

7月16日(火)

14:00～15:00

●リハビリテーションと本人への関わ
り方について

日時：8月2日(金)

8月20日(火)

14:00～15:00

●福祉制度について

日時：9月6日(金)

9月17日(火)

14:00～15:00

参加を希望される方は、参加申込書
にご記入のうえ、高次脳機能センター
にお申し込みください。当日参加も可
能です。

施設紹介

クラブハウス・シエイキングハウス・シエイキングハンズ

クラブハウス・シエイキングハンズには、「働きたい」の実現を目標に掲げている高次脳機能障害者が通所しています。「生かされたいのちを生きがいのある人生に……」同じ障害を持つ仲間と出会い、自分自身の魅力に自信をもって社会人として歩みだせるよう、背中を押していきます。

アストラムライン上安駅下車すぐ、上にはマンガ図書館があり、わかりやすく通いやすい場所にあります。

「チャレンジ 就労移行支援事業」

就労に向けての準備をし、障害の「見える化」に取り組み場

試供品の貼り付け作業、清掃作業、郵便仕分け等の「作業活動」は、向いている仕事を考えたり、アピールポイントを見つけたりするための「道具」としてあり、プログラムとして取り組んでいます。1日のおわりには、メンバー同士が気づきを発表しあい、翌日の活動に反映させていきます。作業活動でわかったことを整理したうえで、職業センターやハローワーク、障害者就業・生活支援センター、ジョブライフサポーターと連携して、実習や就職活動へとすすめていきます。

一般就労をするためには、週5日、20時間以上働くことができる体力が必要です。作業や実習に取り組むことは、就職

活動を始めるにあたって、自分の働き方について考える時間にもなっています。

〈就職実績〉

平成23年度 一般就労1名

平成24年度 就労継続A型へ1名

一般就労1名

「ワークステージ 就労継続支援B型事業」

仲間と共に自分の障害と向き合う時間を過ごす場

一般就労を目指して少しずつ通える体力をつけたい方、基礎から取り組みたい方に、認知訓練とコミュニケーションを意識したグループワークのほか、試供品の貼り付け作業、清掃作業を実施しており、緩やかなペースでレベルアップする学びの場としてご利用いただいています。

〈就職実績〉

平成24年度 就労継続A型へ2名



「その他」

〈企業見学〉

平成24年度は企業見学会を2回実施しました。企業のことを調べたり、行き方や服装を確認したり、質問事項を事前にグループワークでまとめあげる作業は、実際の就職活動を意識したものとなっています。

〈JOBBOOMミーティング〉

就職を果たし、活躍している先輩たちの交流会を定着支援として企画しています。

偶数月の第1日曜日 13:30～15:00

〈家族相談会〉

クラブハウス・シエイキングハンズはNPO法人高次脳機能障害サポーターネットひろしまが運営しています。もともと家族会からスタートしたという経緯があり、当事者と家族を支えることを法人の方針としています。広島市、廿日市市、呉市、東広島市で定期相談会を開催しています。(詳細はホームページ <http://www.koujinou-net.com/>)

〈お問い合わせ〉

〒731-0154

広島市安佐南区上安2丁目30-15

NPO法人 高次脳機能障害サポーターネットひろしま

クラブハウス・シエイキングハンズ

電話：082-1847-1003

FAX：082-1847-0032

E-mail: ko-jinet@aroros.co.jp

お知らせ

高次脳機能地域支援センター
県内全2次保健医療圏に設置

地域の相談窓口としての機能を担う医療機関として指定されています。

広島	広島市総合リハビリテーションセンター
広島西	廿日市記念病院
呉	呉中通病院
広島中央	井野口病院
尾三	尾道市公立みつぎ総合病院
福山・府中	脳神経センター大田記念病院
備北	三次地区医療センター

職業訓練情報

広島障害者職業能力開発校
委託訓練

今年度も、高次脳機能障害・精神障害の方を対象にした委託訓練(キャリアサポート科)が始まります。

募集期間：6月3日～8月2日

訓練期間：8月27日～11月26日

場所：東広島地域職業能力開発協会
(東広島市八本松)

定員：10名

希望者は、当センターにご相談ください。

スタッフの紹介



一生勉強、一生青春
(心理士 宗澤)

広島県高次脳機能センター
Hiroshima High-Order Brain Function Center
2006

一期一会
(心理士 澤田)

色即是空 空即是色
(コーディネーター 隅原)

感謝と思いやり
(作業療法士 脇)

明日は明日の風が吹く
泰然自若
(コーディネーター 高上)

初志貫徹
(副高次脳機能
センター長 近藤)

得意淡然、
失意泰然
(事務員 鏡味)

高次脳機能センター スタッフ一同

「売り」はチームワークです…

これからも、よろしくお願いします！

編集後記

何カ月も先延ばしになっていた機関紙を、やっと発行することができました。毎日いろいろな方に出会い、いろいろな人生と出会う中で、日々のちょっとしたことに喜んだり、感謝したりすることが、つらいことの多い毎日を生きるコツだということをお伝えいただけます。この機関紙が、そのちょっとしたことのきっかけになれば幸いです。

診療案内

□ 診察の流れ

予約制になっております。予め電話でご予約の上ご来院ください。

① 電話予約

082-425-1455(代表) 高次脳機能科受付 内線237

受付時間 月～金 9:00～17:00

専門のコーディネーターが対応します。

相談のみでもお受けします。

② 高次脳機能科

脳神経に関する専門医が診察します。

	月	火	水	木	金		
9:00 } 12:00	近藤 啓太	近藤 啓太	近藤 啓太	9:20～ 丸石 正治	近藤 啓太	近藤 啓太	9:20～ 松島 勇人
13:00 } 13:30	近藤 啓太		近藤 啓太		近藤 啓太	近藤 啓太	

診察をスムーズに行うため、現在診療を受けている医療機関の主治医と相談のうえ、可能であれば紹介状・頭部CTやMR等の画像をお持ちください。

③ 入院・リハビリテーション・社会復帰支援・相談、家族支援

高次脳機能障害の病態に応じて医療と福祉の連続したサービスを提供します。